

## カンボジア：コンポントム州 健康な村づくり事業に外務省の補助金

PHJが2011年7月からコンポントム州で実施している「母子保健改善に向けた健康な村づくり」事業の2年目にあたる2012年7月から2013年6月の期間に対し、日本NGO連携無償資金協力（外務省の補助金）が決まり、6月25日 在カンボジア日本大使館で贈与契約署名式典が開催されました。黒木雅文特命全権大使とPHJカンボジア事務所 久米由美子が契約書に署名しました。

PHJでは2004年よりカンボジアのコンポントム州で母子保健プロジェクトを実施してきました。2008年から3年間「母子保健改善事業」を、保健センター（HC）強化、HCスタッフの技術力向上や運営能力強化を中心に、州の南部に位置するバライ・サントウック保健行政区で進めました。その結果、2011年6月の終了時には、HCでの妊婦健診受診者数は事業開始時に比べ2倍、分娩介助件数も年間0件から100件以上に増加と、大きな成果を挙げました。一方HCについての知識が不足したり、アクセスができず、積極的にHCを利用していない村人がいることがわかりました。治療や処置の介入の遅れは、無用な罹患や死亡を招くことになります。

2011年7月からは前事業地と同じ保健行政区の

タノッチュム、チュックサック、ティポー、スロラウHC管轄内の約5万人の住民を対象とした「母子保健改善に向けた健康な村作り事業」を実施しています。これまで築いてきた礎をもとに、村人自身が母子保健活動を実践することを目指しています。具体的にはコミュニティと協働して活動を進め、村人への働きかけを強化します。特に村人を母子保健ボランティアに育成し、また集合村とともに地域搬送システムサービスの立ち上げに尽力しています。

カンボジアでは政府の自助努力や援助機関の支援によって、多くの社会基盤の整備化が図られつつありますが、国道から遠く離れた農村地帯では政府や援助機関の支援が行き届いておらず、今後とも継続した支援が必要であると感じています。皆様からのご支援と補助金を有効に活用し、目標に向けて努力いたします。

カンボジア事務所所長代行 久米



契約書に署名する黒木大使と久米所長代行、式典に出席したPHJカンボジア事務所スタッフ他

## 巻頭言 理事長就任にあたって



PHJ理事長  
小田晋吾  
日本ヒューレット・  
パッカード元社長

このたび、15年の歴史と輝かしい実績を誇るピープルズ・ホープ・ジャパン（PHJ）の理事長を拝命いたしましたこと、誠に身の引き締まる思いでございますが、皆様のご支援のもとPHJのさらなる発展に尽力いたす所存でございます。

PHJはこの15年、活動理念である「保健・医療環境の向上に向けて、教育を中心とした自立支援」を国連の「ミレニアム開発目標（MDGs）」をベースに、タイ・インドネシア・カンボジア・そしてベトナムにおいて活動を行い目覚ましい実績を上げてまいりましたが、今後は支援プログラム等を充実させチームメンバーの皆様と共に更なる成果を生み出していきたいと考えております。

また、PHJの活動の転機となった「東日本大震災」での復旧・復興支援につきましても、「全日本病院協会」様

の協力を得て被災地域における医療機関への支援を中心に引き続き活動してまいりたいと思います。

NGOは、その活動に対して認知と賛同を頂いたサポーターの皆様継続的な支援が原点であると思います。従って、我々の日々の取り組みもこの観点から捉えることが肝要であり、更には支援活動先の方々の満足度の向上も活動に際し一つの重要な視点であると考えております。

このことを踏まえ、わたくしとして以下の3点にフォーカスした取り組みを行い、結果としてPHJの活動がご支援いただいている皆様からの評価と信頼に応えることができるよう努力してまいりたいと思います。

第一点目は、「現場力」としての人材・プログラムの充実。二点目は、「伝達力」としての報告・連絡・相談、及び啓蒙・広報活動の強化。そして、最後のポイントは、「財務力」としての賛助会員やスポンサープロジェクト・公的補助の充実であります。

幸い、3年間の副理事長としての経験を通じて、チームの皆様の理解とご支援を得ることができ、新しい第一歩を上記3つの「力」に注力しながら、チームの一員としてPHJの更なる発展に貢献してまいりたいと思います。

皆様におかれましては、なお一層のご支援をお願い申し上げます。就任の挨拶とさせていただきます。

## タイ：HOPE パートナー事業、家庭でのケアに注力し大きく軌道修正を

PHJ タイでは、1998年以來、病気や障がいを抱えながらも、治療費や病院までの交通費を工面できない子供たちを支援してきました。今まで年間約60名の日本のパートナー会員からのご寄附により約60名の患者を支援していましたが、タイの医療保険制度の改善により治療費がカバーされるケースも増えてきたことを受け、PHJではこのたび大きな事業の見直しを行いました。

自立して生活していけると判断される患者35名は、当プログラムからの卒業が決まりました。これらの患者を支援して頂いていたパートナー会員の皆様には、小児先天性心臓病支援事業への支援に切り替えをお願いしています。

一方、この医療保険制度ではカバーされない長期療養やリハビリが必要な患者24名とその家族には、今までの通院支援に加え、看護師や理学療法士らによる医療チームを家庭に派遣し、個別のリハビリプログラムを提供していきます。医療チームはまず、健康状況や家庭での療育環境を把握した上で、一人一人にあった個別のリハビリ方法を検討し、それを家族に教育します。

タイ政府もこのような医療チームによる家庭訪問を推進しているものの、なかなか手がまわらないのが現実です。PHJが病院と連携することで、円滑な家庭

でのケアをサポートします。患者のプロファイルを整え、医療チームの訪問スケジュールを立て、訪問した後はきちんと報告書として記録し、患者の状態の変化を見守っていくというきめ細かい個別対応システムでPHJが撤退した後も現地にこのシステムが残るようにすることを重視しています。急性疾患ではないため、ついついリハビリのための通院が遠のいてしまう患者も多い中で、こうした家庭でのケアが普及していくことは患者と家族の生活の質の向上につながると信じ、PHJタイ職員一同頑張ります。

タイ事務所 所長 ジラナン



理学療法士が歩行訓練の方法を家族に伝えています

## 「東日本大震災」復興に訪問診療車を寄贈



5月にオープンした村岡外科クリニック

東日本大震災発生から1年8ヶ月が経ち被災地の復興が進められております。PHJは発生直後から全日本病院協会(全日病)と連携して医療救護班派遣のサポートや緊急支援

物資の搬送を行いました。医療救護班撤収後は宮城県気仙沼市の医師会にご協力をいただき、民間クリニックの被害状況とニーズ調査を行い、これまでに2回の医療機器、什器類の寄贈を行ってきました。また宮城県石巻市では被災した石巻港湾病院(全日病会員)へ什器・家具の寄贈を行いました。今年5月には津波で全壊した気仙沼の二つのクリニックが新しい場所でオープンした嬉しいニュースも届いています。

しかし今被災地では仮設住宅で暮らしているお年寄りや病院まで通うことが困難な高齢者や体が不自由な人達が医療面で大変困っています。気仙沼市は入院設備や医療機器が整っているのは気仙沼市立病院だけで医療過疎地域(医師数115.5人/人口10万)と言われています。

震災前の気仙沼は在宅医療に対する理解が乏しかったものの、震災後のJRS(気仙沼巡回療養支援隊)の活動を通じて住民、医療者双方において在宅医療に対する理解認識が深まり、大きな成果を上げています。この活動の地元責任者の一人が村岡先生(村岡外科

クリニック院長)で、JRS撤退後も引き継ぎ、維持推進されています。

PHJはこの在宅医療推進の一助として9月に超音波診断装置と検眼機器類を搭載した訪問診療車(ダイハツ ミライース)1台を村岡外科クリニックに寄贈しました。リアス式海岸の特徴である海からすぐ山間部になる気仙沼での在宅医療に4輪駆動の軽ワゴン車が活躍することを願っております。これは地域住民のみならず基幹病院である気仙沼市立病院の一点集中の負担軽減にも寄与すると期待されています。

まだまだ被災地では多くの苦難を乗り越えようと頑張っています。PHJは復興に向けてこれからも活動を続けてまいりますので皆様のご支援をよろしく願います。

東京事務所 横尾



超音波診断装置で診断する村岡先生(左)



寄贈した訪問診療車



# ● 2012年度報告および2013年度計画 ●

## 2012年度決算および2013年度予算

(単位: 円)

科目	2012年度決算	2013年度予算
<b>I. 収入の部</b>		
<b>1. 現金寄付</b>	<b>93,278,061</b>	<b>92,200,000</b>
法人	47,112,889	54,000,000
個人	8,096,233	7,600,000
パートナー	2,199,000	2,100,000
一時寄付	6,783,649	6,000,000
災害寄付	29,086,290	22,500,000
<b>2. 商品寄付</b>	<b>139,773,922</b>	
<b>3. 公的補助金</b>	<b>19,253,542</b>	<b>19,800,000</b>
<b>4. 預金利息</b>	<b>44,336</b>	
当期収入(現金)	112,575,939	112,000,000
当期収入(商品)	139,773,922	2,300,000
当期収入合計(A)	252,349,861	114,300,000
前期繰越(現金)	68,651,183	61,360,235
〃(商品)	0	0
<b>収入合計(B)</b>	<b>321,001,044</b>	<b>175,660,235</b>
<b>II. 支出の部</b>		
<b>1. 事業費</b>	<b>237,172,656 (91.3%)</b>	<b>103,410,000 (82.3%)</b>
現金	97,398,734	101,110,000
商品	139,773,922	2,300,000
<b>2. 募金活動費</b>	<b>17,513,166 (6.8%)</b>	<b>16,270,000 (12.9%)</b>
人件費	11,680,000	9,000,000
経費	5,833,166	7,270,000
<b>3. 管理費</b>	<b>4,954,987 (1.9%)</b>	<b>6,000,000 (4.8%)</b>
人件費	1,051,095	2,000,000
経費	3,903,892	4,000,000
<b>支出合計(C)</b>	<b>259,640,809 (100%)</b>	<b>125,680,000 (100%)</b>
現金	119,866,887	123,380,000
商品	139,773,922	2,300,000
<b>III. 次期繰越(B-C)</b>		
<b>1. 現金</b>	<b>61,360,235</b>	<b>49,980,235</b>
<b>2. 商品(在庫)</b>	<b>0</b>	<b>0</b>

## 2012年度事業費内訳(現金+商品)

単位: 円

支援事業	現金	商品	合計
インドネシア	15,482,336		15,482,336
カンボジア	19,532,394		19,532,394
タイ・ベトナム	24,781,829		24,781,829
日本(災害支援)	37,602,175	139,773,922	177,376,097
計	97,398,734	139,773,922	237,172,656

## 監査報告書

ピープルズ・ホープ・ジャパン

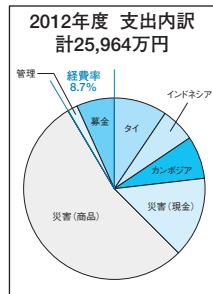
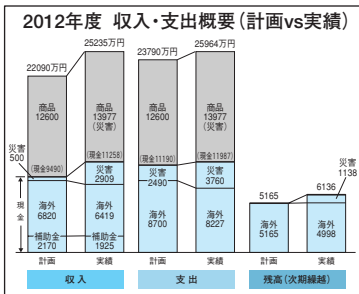
理事長 甲谷勝人殿

私はピープルズ・ホープ・ジャパンの2012年度の事業報告書および決算書を監査した結果、いずれも適正妥当なものと認めます。

2012年8月2日 監事 植野道雄 (印)

## 2012年度事業報告

### 1. 会計報告



## 2. 支援活動報告 概要

当期活動は東南アジア4ヶ国での支援活動とともに昨年3月11日に発生した東日本大震災の災害支援も引き続き行いました。タイ・ベトナム・インドネシア・カンボジアの支援活動は順調に推移し、これら海外支援に対する募金活動においては補助金を含めた収入計画8,990万円に対し実績8,349万円と計画未達となりましたが、支出については計画8,990万円に対し実績8,227万円となり、この収支は+122万円とブレイクイーブン目標を達成しました。

一方災害支援活動におきましては前期同様、多くの法人・個人の方々のご支援により災害募金収入2,909万円、商品寄付13,977万円となり、全日本病院協会(全日病)と連携し主に気仙沼、石巻の被災病院の復興のための医療機器等の寄贈による支出は17,737万円となり、災害募金残金1,138万円は次期に繰越しました。

### 2-1. 東日本大震災支援活動(総事業費 17,737万円)

PHJは引き続き全日病と連携して緊急支援から復興支援に活動をシフトしてきました。気仙沼市医師会のご協力により27の医療機関にニーズ調査を行い、第一次支援は2011年12月に医療機器1,600万円と什器類を、第二次支援は2012年4月に医療機器1,340万円と什器類をそれぞれ納入しました。なお各医療機器メーカーより特別価格による提供や超音波診断装置等の機器の寄贈等のご協力をいただきました。また津波で全壊した気仙沼の二つのクリニックからは新しい場所で5月に新オープンした嬉しい報告も届きました。気仙沼以外にも石巻港湾病院に什器類を寄贈しました。

### 2-2. タイ支援(総事業費 2,478万円)

#### ① HIV/エイズ予防教育支援

予定していた、外務省の補助金を取得しての過去10年以上の活動の評価プロジェクトは、準備の都合上2013年度に延期し、2011年度同様の活動方法で、5大学を中心に事業を行いました。

#### ②子宮頸がん・乳がん検診推進支援

チェンマイ県内6郡で、乳がんも追加した3年間のプログラムを外務省の補助金を得て、2010年11月に開始しました。第一年度目の活動地域であるサラピー郡およびサンカンペン郡では、子宮頸がん検診受診率50.7%、乳がん自己触診率76.3%を達成し、検診の結果異常が見つかった女性全員が、その後精密検査と治療を受けることができました。第二年度目となる2011年11月からは、サンサイ郡およびドイサケット郡で事業を開始しています。

#### ③ HOPE パートナー教育支援

1998年以来継続している「里親制度」プログラムで、個人および企業の支援を得ています。2012年度は61名のドナーにより、59名の長期療養を必要とする子供達および家族への治療および健康教育・自立支援活動を行いました。また、障がい児の家族によるケア教育のための施設「ラーニングセンター」の運営を、現地のRICD(ラジャナガリンドラ子供発達支援センター)に移管しました。

#### ④小児先天性心臓病手術支援

前年度に引き続き多くの企業からの支援のもと、17名の子ども達の心臓病手術支援を行いました。今年度からは従来のパートナー病院であるチェンマイ大学病院に加え、新たにランバン病院での手術が可能になりました。

#### ⑤ベトナムハノイ乳がん検診推進支援

ハノイの現地NPOのネットワークを利用して、タイ事務所の経験を生かした、乳がん検診推進事業を2011年1月よりテストプログラムの位置づけで開始しましたが、現地の要望により、2012年1月からは、事業地を変え第二年度の活動を開始しています。

### 2-3. インドネシア支援(総事業費 1,548万円)

#### ①バンタン州地域保健医療システム強化事業

西ジャワのバンタン州セラン県で、MDGs目標でもある安全な出産と子供の健康な発育を目指し、村レベルの診療所を中心とした地域医療連携システム強化事業を引き続き実施しました。優良な医療サービスを提供できる診療所(Poskesdes)等の建設支援は当年度1棟、累計8棟(含助産室)となりました。「栄養改善活動」では、新鮮で安価な食材確保のための栄養園開発を行い、期待以上の収穫を得、また栄養教育センター機能もフル活用しています。

事業対象地域は保健行政にモデル自治区として認められ、一層の励みとなっています。

#### ②水事業

母子健康プログラムの事業実施地には上水道設備はなく、診療所での安全な水確保のために、今までの掘削経験を活かした手掘りによる深井戸を1本掘削しました。(累計8本)

③ 感染症予防教育支援

バリ州では、特に狂犬病の発生率が高く州保健局から感染予防啓蒙教育と狂犬病ワクチン不足への支援要請がありました。2008年度同州での鳥インフルエンザ感染予防啓蒙教育を実施し成果を挙げた経験を水平展開して予防体制を整備すると共にワクチンも支援し、成果を挙げました。

④ 画像診断技術教育支援

画像診断技術教育支援の対象をギアーニア病院の医師・技師のみでなく地域診療所にも拡大し、派遣技師によるブラッシュアップ事業を継続実施し成果を上げました。

⑤ 口腔衛生予防教育支援

今年度も東バリ地区の歯科医師等の専門家を対象にした小児歯科技術教育セミナーを開催し、好評でした。

2-4. カンボジア支援 (総事業費 1,953 万円)

① 母子保健 助産師トレーニング

2007 年度よりプレイベン州のプレイベン保健行政区で、地域の母

子保健の鍵を握る保健センター助産師が、適切な助産サービスに必要な技能を修得することを目標に地元の州病院産科で実践的トレーニングを実施してきました。今年度は、プレイスダット保健行政区で保健センター助産師 8 名を対象とするトレーニングを実施しました。

② 母子保健改善プロジェクト

コンボントム州での母子保健改善事業は、外務省の補助金を得て FY12 より 3 年事業「健康な村作り事業」として始まりました。当事業は、村人の認識と行動をかえてゆくことに焦点を当てた事業となっています。1 年目は、事業基盤作りということで、母子保健に特化したボランティアや衛生モデル世帯の育成、村から保健センター等への医療アクセスを改善するための村人運営による緊急搬送システムの立ち上げ等を行いました。

③ カンボジア洪水募金

2011 年 8 月からインドシナ半島を襲った洪水の被害を受けたコンボントム州の活動サイトの被災者向けに 10 月 15 日募金を開始し、支援物資 220 万円相当を届けました。



2013 年度 事業計画

1. 概要

東日本大震災支援については前期に引き続き全日病と連携して被災地の病院機能の復興支援とともに仮設住宅や周辺住民への医療サービスが充実するように移動診療車の寄贈や不足している医療用品の配布などを支援していきます。一方 PHJ 主務の海外支援については、タイ・ベトナム、インドネシア、カンボジアの支援事業の継続とともに次の支援候補地としてミャンマー、ラオス等の現地調査を開始します。

\*各プログラムは 2012 年度と異なる内容を掲載しています

2. 東日本大震災支援活動 (総事業費 3,888 万円)

3. タイ支援 (総事業費 2,501 万円)

① HIV/エイズ予防教育支援

従来の活動方法は最小限とし、過去 10 年以上の教育効果把握のため、外務省の補助金を得て、効果測定を行うプロジェクトを進め、次の事業展開を考えます。

② 子宮頸がん・乳がん検診推進支援

外務省の補助金により 2010 年 11 月に開始した 3 年活動で、2012 年 10 月末には第二年度のレビューを行い、その結果を踏まえ、11 月より第三年度の活動を、ハンドン郡、サンバトン郡にて開始します。

③ HOPE パートナー教育支援

1998 年以来継続している「里親制度」プログラムを見直し、タイでの医療保険制度の改善により無料で治療が受けられる半分の 35 名を卒業させます。残り 24 名に対し、看護師・理学療法士と共に家庭訪問し、リハビリ治療を行うなど、個別対応のホームケアに力を入れ継続します。また、担当の子供が卒業する支援者には、小児先天性心臓病手術のご支援をお願いする予定です。

④ 小児先天性心臓病手術支援

従来のチェンマイ大学に加え、ランバン病院での手術を拡大する他、タイ国籍を持たない子供への支援も検討します。

⑤ ベトナムハノイ乳がん予防教育支援

第二年度も、対象地区を変えて 2012 年 12 月まで活動を行います。2013 年 1 月からは現地パートナーと事業地を変え、規模を拡大して事業を継続する計画です。

4. インドネシア支援 (総事業費 1,900 万円)

① バンタン州地域保健医療システム強化事業

今年度は母子保健のみならず、健康に暮らす環境(衛生)面と緊急搬送患者・異常出産にも対応できる救急搬送システムの構築に着手します。保健センター建設支援はソーラー深井戸付を基本仕様として実施します。「栄養改善活動」では、栄養教育センターを活用して今まで開発した栄養メニューの浸透を図ると共に、2 年目に入った栄養菜園の拡張を図ります。

② 画像診断技術教育支援

日本から検査技師を派遣して画像診断教育を継続実施するとともに、不足している画像診断機器の支援も実施する計画です。

③ 感染症予防教育支援

バリ州で実施した新型インフルエンザ(鳥・豚インフルエンザ)・狂犬病予防啓蒙教育に加え、本年度から HIV/AIDS 予防啓蒙活動を開始する計画です。

④ 口腔衛生予防教育支援

5. カンボジア支援 (総事業費 1,822 万円)

① 母子保健改善のための健康な村作り事業

外務省からの補助金を得て実施している 3 年事業「健康な村作り事業」の 2 年目です。

② 助産師トレーニング

第 17 回理事会、第 15 回総会

8 月 23 日(木) 東京千代田区にある如水会館で第 17 回理事会が開催され、2012 年度の事業報告、決算報告、2013 年度の計画と予算、および役員改選が討議され承認されました。議案は引き続き開催された第 15 回総会に付議され、異議なく承認可決されました。

理事会ではインドネシアの伊藤所長、カンボジアの久米所長代行、タイ・ベトナム担当の武長が報告を行い、東日本大震災の報告は横尾が行いました。



ピープルズ・ホープ・ジャパン役員		(敬称略 50 音順)
(再任) 理事	小田 晋吾	日本ビュレット・バックカード(株) 元社長
〃	川上 潤	GEヘルスケア・ジャパン(株) 代表取締役社長兼 CEO
〃	木村 敏雄	ピープルズ・ホープ・ジャパン 代表
〃	甲谷 勝人	日本ビュレット・バックカード(株) 元社長
〃	後藤 幸子	武蔵野市民
〃	五月女光弘	外務省初代 NGO 担当大使、駐ザンビア・マラウイ元大使
〃	清家 篤	慶應義塾 塾長
〃	田中 滋	慶應義塾大学 経営大学院 教授
〃	中島 康雄	聖マリアンナ医科大学 放射線医学教室 教授
〃	西澤 寛俊	全日本病院協会 会長 (西岡病院理事長)
〃	松本 謙一	海外医療機器技術協会 会長 (サクラグローバルホールディング(株) 会長)
〃	溝口 文雄	横河電機(株) 社友
(新任) 理事	内藤 晴夫	日本製薬団体連合会 会長 (エーザイ(株) 代表執行役社長兼 CEO)
〃 監事	八木 和則	公認会計士・監査審査会委員、企業会計審議会委員、横河電機(株) 顧問



## PHJ のホームページ リニューアルしました

PHJ ってどういう NPO? どんな活動をしているの? という質問にわかりやすく答えることができるように、ホームページを改造する作業を 4 月に開始し、7 月 26 日新しいサイトが公開されました。



母子保健改善を主なミッションとしていることを「命を生むことを、命を落とすリスクにたくない」というフレーズで表現しています。イメージの右側には活動サイトのインドネシア、カンボジア、タイ、ベトナムでの母子保健状況の他、カンボジアとインドネシアの安全なお産を支援する目的のマンスリー募金「こんにちは! お母さん募金」、東日本大震災復興支援、アジアのおはなしカレンダーなどの募金にアクセスできるバナーを設けています。



下部では左のパナーでスタッフのブログ、企業による支援事例、メルマガ登録や Facebook への窓口、また Pick Up では 6 項目の最新の活動報告を順次更新しています。What's New で PHJ が参加するイベントや募金活動などを紹介しています。

コンテンツ・マネージメント・システムを採用し、更新が可能になりました。

リニューアルしたホームページの WEB サーバー設定・運営は (株) 五大システムに、デザインは「アジアのおはなしカレンダー」でもボランティアで協力して下さっているグラフィックデザイナー南部良太さんをお願いしました。またトップページの写真やカンボジアの写真はプロのカメラマン久保年弘さんが提供して下さいました。

どうぞ <http://www.ph-japan.org> をご覧になってコメントや質問をお寄せください。 広報グループ

### 五月女理事



### Vol.7 感謝は廻る/第九の歌い方教えます



鳴門市ドイツ館に展示のハンゼン指揮の第九演奏会風景

年末ともなれば、日本各地でベートーヴェンの交響曲第九・合唱が演奏されます。日本で初めて「第九」が演奏されたのは今から 94 年前の徳島県坂東町（現在の鳴門市）でした。

#### <第 1 次世界大戦と日独の出会い>

1914 年、第一次大戦勃発により、日本は日英同盟に基づきドイツに宣戦、神尾光臣中将指揮の日本軍 3 万と英軍 1 千は、ドイツ租借地青島（チンタオ）のドイツ軍 4 千 7 百を包囲、民間人・婦女子・外国人を安全地帯に退避させ、総攻撃を開始、40 日間に亘る攻防の後ドイツ軍は降伏した。

神尾中将（後に大将、作家有島武郎の岳父）は、降伏した将兵の武人としての誇りを尊重し帯剣を許し、次のように語りかけた。“諸君は祖国から遠く離れ、孤立無援の中、勇敢に戦われた。しばらく日本で静養して下さい。日本国民は必ずや諸君の勇気と愛国心を称え、客人として迎えることでしょう。”

#### <坂東俘虜収容所>

捕虜たちは日本各地に分散収容されたが、その一つが千名を収容した坂東俘虜収容所である。所長の松江豊寿中佐（後に少将）は篤実の士であった。官軍に敗北した会津藩士の子としてつらい思いをした松江は捕虜たちを文化人、科学者として高く評価し、彼らからヨーロッパ文化・医学・技術な

どを学べるよう師として接したのである。ドイツ軍将兵はその寛大な処遇に感謝し、軍医はドイツ医学を、工兵隊は橋梁建設技術を、楽隊員はドイツ音楽を日本人に伝授したのであった。

#### <日本初の第九の合唱>

軍楽隊内ではいくつもの楽団が編成されたが、中でもハンゼンとエンゲル指揮の 2 つの楽団が有力であった。1918 年 6 月 1 日、坂東収容所内で、ハンゼン指揮のドイツ軍楽隊により、日本で初めて「ベートーヴェン交響曲第九・合唱」の全曲が 80 名の合唱団とともに演奏された。その後、ハンゼンとエンゲルは日本の音楽団体との交流に力を入れ、演奏会を日本各地で 100 回以上行い、ついには「第九」は日本全土で歌われる最も愛される交響曲になったのである。

#### <感謝は廻る、情けは人のためならず>

受けた恩義への感謝の思いは古今東西変わらない。終戦後、日本を愛しドイツに帰国しなかった捕虜たちも多数いた。捕虜たちから信頼の厚かった松江少将はその後退役、故郷に戻り、会津若松市長に就任、誠実と博愛の心を持って市民に尽くしたという。



五月女光弘（さおとめみつひろ）  
外務省初代 NGO 大使、元特命全権大使、元早稲田大・聖心女子大等兼任講師、文芸春秋ベストエッセイストの一人、著書多数、PHJ 理事等。

## 会員のひろば

### 「サンパウロ自閉症児療育学級 (PIPA)」

伊藤 武 (個人賛助会員)\*

在ブラジル日系福祉団体、日伯援護協会の傘下に、サンパウロ自閉症児療育学級 (PIPA) があり、現在6名の子供たちが学んでいます。PIPA 設立以前には、これらの子供達はもっぱら薬物療法に頼っておりました。



生活療法の一つとして和太鼓の練習

PIPA は、2007 年に JICA の協力を仰ぎ、薬に頼らない生活療法の第一人者、武蔵野学園三枝先生直々の指導のもとで、生活療法を本格的に導入しました。私も支援者の一人として、PIPA の子供達の成長ぶりを見まもって来ましたが、毎年に見違えるほどの成長ぶりを見せてくれる子供達を見るにつけ、生活療法の素晴らしさと共に、人の理解と思いやりの心が、薬にも勝り、自閉症児の固く閉ざされた心まで開かせるその力

の大きさに、人間の素晴らしさを感じると共に、大きな感動を受けております。

先日、三枝先生の下で学び社会福祉法人トボスの会の理事でもおられる平雅夫



先生を日本からお迎えして開催された講演会を拝聴しに伺った際、会場に母親と一緒に来ていた幼子が、母親の言うことなどなんのその、大声を出して走り回っているのを見て、一瞬非難めいた目でその親子を見てしまったその時、目の前で平先生が自閉症児に対する理解と思いやりの大切さを説いている時に、自分の思いやりの足りなさに気がつきハッとさせられました。あの母子の無言の教えが、私に平先生の話をもっと具体的に悟らせてくれたような気がし、母子に感謝の念をいだきつつ会場を後にしました。

\* PHJ 設立以来の賛助会員。カレンダー募金、PHJ の各種募金にあついで支援を下さっている。横河ブラジルを退職後、「あすか」という美味しいラーメンと餃子で有名なお店を経営。日本からの訪問者が大変お世話になっています。

## PHJ スタッフ紹介

2012年5月から7月に3人のスタッフが加わりました。



### 北島 弘

3年前に個人会員となり、運営委員会にはオブザーバーとしてたびたび参加をさせていただきました。PHJ の「母子保健」「東日本大震災」の支援活動に共感をしてきました。会社人間卒業に伴い自然の流れで東京事務所でお手伝いをさせて頂くことになりました。“支援者の皆様”と“現地活動”とのパイプ役としてお役に立ちたいと思います。



### 小川 敏夫

この度、伝統と実績のある NPO 法人 PHJ で仕事をさせて頂くことになりました。先輩の方々のご指導を仰ぎながら、できるだけ早くキャッチアップし、これまでの企業での40年余りの経験を生かし、PHJ のミッション達成に、微力ながら尽力する所存です。どうぞよろしくお願ひ致します。



### 畑 真弓

6月より広報グループに加わりました。PHJ で働きたいと考えた理由として、数年前に自分自身が出産を経験したことが大きいと思っています。“安全なお産にむけて—アジアの母と子をささえる” PHJ の活動に、微力ながらも携わらせて頂ける事に日々やりがいを感じています。PHJ の活動を、より多くの方々に知っていただけるよう、努力を重ねていきたいと思っています。

## ● PHJ は秋のイベントに参加します ●

「アジアのおはなしカレンダー 2013」をテーマに次の3つのフェスティバルに参加します。

インドネシア、カンボジア、タイ、武蔵野市の子供たちがおとぎ話をもとに描いた絵をご覧ください。

### ●第23回 三鷹国際交流フェスティバル

日時 9月23日(日) 10:00-15:30

場所 井の頭恩賜公園 西園 東南アジアブロック

出展内容 「アジアのおはなしカレンダー 2013」のために描いた絵の展示  
おとぎ話の聞き語りや絵に描くワークショップに参加します

### ●グローバルフェスタ JAPAN2012

日時 10月6日(土)、7日(日) 10:00-17:00

場所 日比谷公園、ブルーエリア B24

出展内容 「アジアのおはなしカレンダー 2013」のために描いた絵の展示



2011年のグローバルフェスタ JAPAN

### ●むさしの国際交流祭り

日時 11月18日(日) 11:00-16:00

場所 武蔵境 スイグホール 11階

出展内容 「アジアのおはなしカレンダー 2013」のために描いた絵の展示



2011年のむさしの国際交流祭り